研究主題「伝え合う力を高めるための指導法の工夫
～人とのかかわりを大切にした『話すこと・聞くこと』の指導を通して～」

東京都教職員研修センター　研修部　専門研修課
台東区立台東育英小学校　　教　諭　朝日　朋子

Ⅰ　研究のねらい

1　研究の背景とねらい

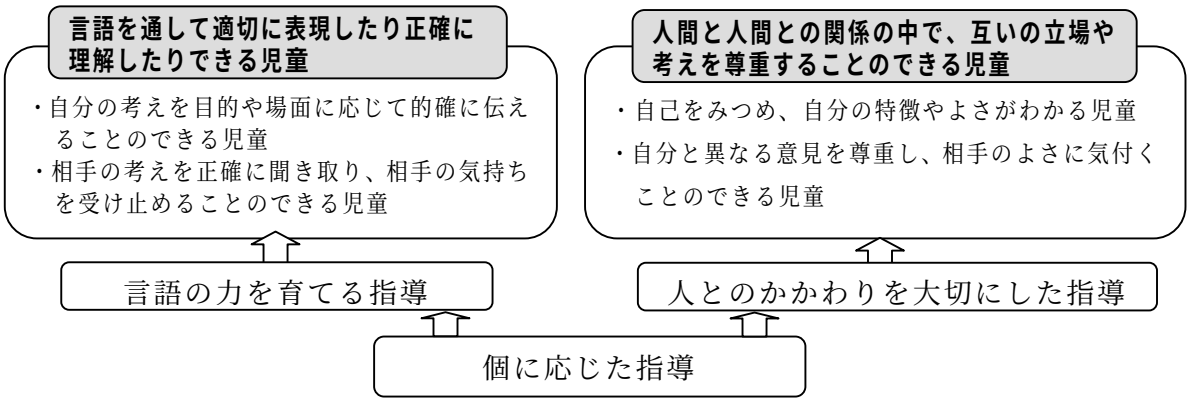
「伝え合う力」は、人間関係を築く上でも、社会生活を営む上でも、きわめて大切な資質ある。小学校学習指導要領「国語」では、「伝え合う力を高める」ことが目標に位置付けられている。文部科学省の「児童生徒の問題行動対策重点プログラム（最終まとめ）」（平成 16 年 10 月）においても、「伝え合う力を高め、望ましい人間関係を構築するための指導の推進」をすることが重要であるとしている。本研究のねらいは、国語科における「伝え合う力」を高めるとは具体的にどのような変容を児童に期待するのかを明確にし、「伝え合う力」を高めるための指導の工夫等を明らかにすることである。主に「話すこと・聞くこと」における、個に応じた指導法を中心に研究を進めることとした。

2　研究の仮説

(1) 目指す児童像と「伝え合う力」を高める指導

小学校学習指導要領解説国語編では「伝え合う力」を「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力」としている。育てたい児童像を明らかにするにあたって、「話すこと・聞くこと」における「言語を通して適切に表現したり正確に理解したりできる」児童と、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重することのできる」児童の２点から考えることとし、学習指導要領や答申、先行研究を分析し、目指す児童像を図１のようにとらえ、具体化した。こうした児童を育てるためには、国語科の最も基本である「言語の力を育てる指導」のほかに、「人とのかかわりを大切にした指導」を計画的に進めていく必要があり、また、個に応じた指導を徹底していくことが大切であると考えた。

【図１　育てたい児童像】



(2) 研究の仮説

研究の仮説を、「『話すこと・聞くこと』の指導に、『人とのかかわりを大切にした指導』を個に応じて取り入れることで『伝え合う力』を高めることができる」とし、研究を進めた。

Ⅱ　研究の内容と方法

１　基礎研究

学習指導要領、答申、先行研究等を分析し、「話すこと・聞くこと」における「言語の力を育てる指導」「人とのかかわりを大切にした指導」の２点を具体的に明らかにした。

２　実践研究

(1) 検証授業

第２学年と第６学年で、「話すこと・聞くこと」の指導に「人とのかかわりを大切にした指導」を取り入れた検証授業を行い、「伝え合う力」を高めることができることを検証した。

(2) 指導の手だてが有効であったかを評価する方法

・事前調査の結果と検証授業における児童の様子を比較し、考察した。

・言語活動における「人とのかかわり」を明確にする単元の評価規準を設定した。

(3) 検証授業における基本的な考え方

・国語科の最も基本的な目標である「言語の力を育てる指導」を行う。

・相手を尊重しながら人とかかわれるようにするために「人とのかかわりを大切にした指導」を取り入れる。

・一人一人の「話すこと・聞くこと」の学習状況に応じた「個に応じた指導」を行う。

Ⅲ　研究の結果と考察

１　言語の力を育てる指導

言語の力を育てるためには、「話題・題材」「学習過程」「学習形態」「教材・教具」「評価」の５点の工夫を行うことが有効であることが先行研究から明らかとなっている。本研究では、「話すこと・聞くこと」に指導を必要とする児童の学習状況に応じて、手だてを工夫することとした。

【表１　言語の力を育てる具体的な手だて】

言語の力を育てる指導の工夫	第２学年検証授業	第６学年検証授業
・**話題・題材の工夫**：児童の実態や興味・関心に応じた工夫をする。	学習意欲を高めるため、自分の宝物を持ってきたり、絵で描いたりする。	総合的な学習の時間で学んだことを生かし、身近な環境問題を話題にする。
・**学習過程の工夫**：対話、討論会、パネルディスカッション、スピーチ等の単元の展開を工夫する。	２人でお互いの宝物を紹介し、質問し合う。聞き取った友達の宝物の話の内容を、４人グループになったときに紹介する。最後に全員の前で宝物について発表する。	同じような意見をもつ友達とグループになり、反対意見をもつグループと討論会を行う。自信をもって話せるように、作戦会議や役割分担を行う。
・**学習形態の工夫**：一斉学習、少人数学習、課題別学習等の工夫をする。机の配置や場所の工夫をする。	少人数で学習するときは、TT による指導を行い、支援を必要とする児童へ助言を行う。話すときの体の向きや、グループ間の間隔に配慮する。	一人一人の話す機会が増えるよう、学級を大きく３つのグループに分け、それぞれで討論会を行う。
・**教材・教具の工夫**：ワークシート、アドバイスカード、ヒントカード等の工夫をする。	紹介の仕方の順番や質問項目などを示したアドバイスカードを用意する。話し方のモデルを示す。	学習の流れがわかる討論会シートを用意したり、討論会のモデルを示したりする。
・**評価の工夫**：個別支援表、自己評価、相互評価等の工夫をする。	個別支援表を作成し、活用する。話し方・聞き方の自己評価、相互評価をする。	個別支援表を作成し、活用する。自己評価と相互評価ができる評価表を用意する。

２　人とのかかわりを大切にした指導

相手を尊重しながら人とかかわれるようにする指導として、「積極的に人とかかわる活動を取り入れた指導」「日常の友達関係を配慮した指導」の２点があると考えた。具体的な手だてを次のように工夫した。

(1) 積極的に人とかかわる活動を取り入れた指導

２学年「たからものは　なあに」の指導に、友達とふれあいながらよりよい人間関係づくりができる、教育相談的な手法の一つである構成的グループエンカウンターを活用した。

【具体的な手だて】

・構成的グループエンカウンターの「うれしい話の聞き方」を活用し、話の聞き方を学習する。話の聞き方を自己評価するだけでなく、話を聞いてもらえる喜びが確認できるような振り返りカードを工夫し、振り返りを行う。
・構成的グループエンカウンターの「友達紹介」を活用し、２人組→４人組というように徐々に話す人数が増えていく場面を設定する。また、うれしい話の聞き方の学習を生かして相手の話を聞き、聞いた友達の話を４人組になったときに紹介する。

(2) 日常の友達関係を配慮した指導

６学年「討論会をしよう」の指導では、日常の児童の友達関係を配慮した指導を行った。

【具体的な手だて】

・友達関係に不安を感じている児童のグループの構成メンバーを配慮する。同じような意見をもつ者同士でグループを作ることが原則であるが、支援を必要としている児童に、グループを作る際に助言を行う。

３　個に応じた指導

「言語の力を育てる指導」「人とのかかわりを大切にした指導」を一人一人の学習状況に合わせて行うことが必要であると考え、事前調査の結果をもとに個別支援表を作成し、個に応じた指導を行った。

(1) 事前調査

所属校の第２学年３６名、第６学年３３名に、「話すこと・聞くこと」の事前調査、友達関係をとらえるアンケート調査を行った。「話すこと・聞くこと」の学習状況と「友達関係」の関係から、「話すこと・聞くこと」の学習状況が良好な児童は「友達関係」も良好であることがわかった。また、「話すこと・聞くこと」において指導を必要とする状況の児童を「言語の力」「友達関係」から分析すると、次の３つのタイプに分けられた。

ア　「言語の力」が十分身についていないために、「話すこと・聞くこと」において力を発揮できない児童

イ　「友達関係」に指導を必要とするために、「話すこと・聞くこと」において力を発揮できない児童

ウ　「言語の力」「友達関係」ともに指導を必要とするために、「話すこと・聞くこと」において力を発揮できない児童

(2) 個別支援表の作成

主に、上記の「アの児童」「イの児童」「ウの児童」に必要な「言語の力を育てる指導」「人とのかかわりを大切にした指導」の具体的な手だてを明らかにした。表２は「ウの児童」の個別支援表である。個別支援表に基づき支援を行ったところ、この児童は、単元の最後の発表の場面で、自分の宝物について、その大切な理由を詳しく述べることができた。

【表２ 個別支援表 「言語の力」「友達関係」ともに指導を必要とする児童（第２学年)】

事前調査の児童の様子	言語の力を育てる指導	人とのかかわりを大切にした指導
たくさんの友達の前で話すことを苦手に思っている。話題をみつけることがなかなかできず、最後まで話せなかった。	・具体物の「宝物」を用意。 ・話し方のモデルを示す。 ・質問の仕方のアドバイスカードを用意する。	・２人組→４人組というように話す相手を徐々に増やしていく。 ・「友達紹介」を活用する。 ・対話相手を配慮する。

(3) 児童の変容の様子と有効な手だて

「アの児童」「イの児童」「ウの児童」の検証授業における変容の様子と、有効な手だてを下記の表にまとめた。

【表３－１「積極的に人とかかわる活動を取り入れた指導」における児童の変容（第２学年)】

事前の学習状況	手だて	児童の様子
イ「友達関係」に指導が必要な児童	・構成的グループエンカウンター「うれしい話の聞き方」	・２時間目の学習後の振り返りカードには「Aさんが、わたしのはなしをきいてくれました。とってもうれしかったです」など、友達が自分の話を聞いてくれる喜びを表現していた。友達の受容的な話の聞き方が、話すことへの意欲につながったと考えられる。
ウ「言語の力」「友達関係」に指導が必要な児童	・構成的グループエンカウンター「友達紹介」 ・対話相手の配慮 ・話し方のモデル ・アドバイスカード	・全員の前で発表することが苦手でも、対話から、話す相手を徐々に増やしていくことで、話すことの抵抗を少なくできた。対話相手にも配慮し、話し方のモデルやアドバイスカードを示したところ、３時間目の学習では大きな声で話すなど、自信をもって学習する様子がみられた。

【表３－２「日常の児童の友達関係を配慮した指導」における児童の変容（第６学年)】

事前の学習状況	手だて	児童の様子
ア「言語の力」に指導が必要な児童	・討論会のモデル ・ワークシート	・何を話していいか迷っていたが、討論のモデルや手順を示したワークシートを示すことにより、学習の見通しをもつことができた。討論会では、自信をもって自分の意見を述べることができた。
イ「友達関係」に指導が必要な児童	・メンバーの配慮 ・役割分担	・「友達は自分の話をひやかして、しっかり聞いてくれていない」と言う理由で、進んで話そうとしなかったが、グループのメンバーを配慮したり、役割分担をしたりすることで、自信をもって発表していた。
ウ「言語の力」「友達関係」に指導が必要な児童	・作戦会議 ・メンバーの配慮 ・友達のアドバイス	・最初、自分の意見と友達の意見の共通点や相違点をみつけることができなかったが、グループの作戦会議をすることでみつけることができた。また、友達のアドバイスや励ましで自分の意見を発表することができた。

４ 研究の成果

上記のような変容から、「話すこと・聞くこと」において「人とのかかわりを大切にした指導」を取り入れることは、特に「話すこと・聞くこと」において指導を積み重ねる必要のある児童に有効であることが分かった。また、「人とのかかわりを大切にした指導」を積み重ねることにより、言語の力が育つとともに、日常の人間関係づくりにも影響を与えることが分かった。さらに、一人一人の学習状況や実態に応じた指導を行うために、「言語の力を育てる指導」「人とのかかわりを大切にした指導」の具体的な手だてを明らかにすることができた。

Ⅳ 今後の課題

1 児童の発達段階に応じた「言語の力を育てる指導」「人とのかかわりを大切にした指導」を取り入れた「話すこと・聞くこと」の年間指導計画を作成する。

2 国語科の時間と、日常生活や他教科等における「伝え合う力」のつながりをさらに明らかにしていく。